

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4271102248 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 こすもす会 | | |
| 事業所名 | グループホーム なごみ | | |
| 所在地 | 長崎市琴海村松町319番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年10月11日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年1月8日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな環境の元、四季折々の果物、野菜の収穫や近隣農家から頂いたりしながら(共に生き)(共に暮らし)(共に楽しむ)といった介護理念にもとづき、利用者の皆さんが、住み慣れた地域の中で安心して普通に泣き笑いしながら、共に楽しく過ごせる環境と雰囲気づくりに努めながら地域に信頼される施設であることを目指している。そんな中で看護師、准看護師が常勤のため、胃ろう、透析の方の受け入れも可能である。さらに、夜間の異常を早期発見し重症化を未然に回避しその人の健康を整える為に看護師、准看護師を夜勤に配置、合わせて兄弟施設である訪問看護ステーションきんかい、及び他の医療機関との連携を密にし利用者の方々の安全と安楽を確保しながら、早期に医療的治療にスムーズに対応することができる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 | | |
| 所在地 | 長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階 | | |
| 訪問調査日 | 平成24年11月22日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は静かで自然に囲まれた環境の中にあり、ゆったりとした時間の流れる空間となっている。事業所には看護師が常置しており、最寄りに訪問看護事業所や連携医療機関がある等、医療的支援を行いやすい環境にある。職員は理念である「共に生き、共に暮らし、共に楽しむ」を念頭に置き、利用者本位の生活が出来るように支援し、常に声かけを行い、笑顔を保つやさないように心がけている。介護計画は利用者や家族のニーズを反映するように努めると同時に基本であるADLの向上に重点を置き作成されている。施設長らが培ってきたネットワークを活用し取り巻く社会資源等の活用や地域住民、関係機関からの協力を得やすいように働きかけを行っている。ミーティングでは職員の要望等の抽出が行いやすい雰囲気作りが出来ており、職員へは施設長が毎月啓発と意思統一をはかるための書面を渡している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | なごみの理念として、地域への貢献を掲げており地域密着型サービス事業所として、住み慣れた地域で安全で安心できる生活をして頂く為に(共に生き、共に暮らし、共に楽しむ)を施設の理念としている。 | 理念は、利用者と職員そして地域の中で「共に」生活する事をキーワードとし、代表者と職員が意見を出し合い作り上げたものとなっており、職員は日々の支援の中で心がけて実践に繋げている。理念は玄関等の掲示物やパンフレットに記載しており職員はいつでも確認でき共有化出来ている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 理事長自身、地域の役員でもあり、又自治会の老人会入会しており、理事長が地元出身であることから、近隣農家より、野菜、果物を頂いたり地域の方々との出入りも多く利用者さんとも顔なじみである。 | 事業所の行事の中で地域の方も参加してくれる行事には敬老会が挙げられる。自治会に加入しており地域の方の訪問がある事が面会簿等で確認できる。地域行事のふるさと祭りで交流がある他、学生の体験学習受入や認知症等に関する地域の相談場所としても役割は大きくなってきている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 他施設からの見学やビジネススクール育成事業(商工会婦人部主催)による地域の子供たちの、体験学習など積極的に受け入れている。又認知症を抱える御家族からの電話などによる相談も多い。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | なごみ敬老会(推進委員会後)にも地域の役員、敬老者の方々にも参加してもらい、介護の在り方など、お伝えし地域老人会参加時には介護のアドバイスをしたり、民生委員さんと共に単身老人の緊急連絡場所にもなっている。 | 会議では入居状況及び利用者の状態報告を中心に、行事報告や清掃や火災訓練等についての意見抽出を行っている。ただし、会議は構成メンバーの要件は満たしているものの、1年間で2回の開催に止まっている。 | 構成メンバーが揃うタイミングを見つけ、より多くの回数の会議が行える環境を作る事に努め、議事録作成まで行われる事が望ましい。また、会議の中で挙げられた意見を検討し今後のサービス向上に繋げられる事を期待する。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 包括支援センター主催の琴海地区ネットワーク会議に参加したり、グループホームE地区の勉強会で講義を依頼したり必要に応じての関係は保たれている。 | 年1回介護相談員の受入れを必ず行っている他、市町村からの紹介の受入れや認定調査の際等に行政と連絡や相談を行っている。昨今、地域包括支援センターが近くにでき、連携がよりとりやすい環境になっている。認知症サポートリーダーの養成講座における施設見学の受入も行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 理事長自ら身体拘束廃止推進委員養成研修受講し、常に皆で拘束ゼロを目指し介護の業務についている。今年も県主催の研修に、新しい職員を参加させる予定 | 外部の研修会には積極的に参加し、月1回のミーティングの中で他職員への研修報告や職員同士の意見交換を行っている。職員は言葉による拘束も含め身体拘束は行わない介護支援を心がけている事がヒアリングからも確認できる。また、玄関等の施錠は日中は行っていない。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 暴力受けても暴力するなを合言葉に虐待、拘束ははしないとミーティングの中でも話し合っている。特に新人の教育、新人者の夜勤などには十分注意している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 機会あるごとに研修会、勉強会に参加し成年後見制度について学び、利用者御家族にも入所時にパンフレットなど配布している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所希望など社協、包括からあった場合は前もって見学してもらい現場の実際を十分に見て頂き施設の方針などをお伝えし、入居時に重ねて説明を行い納得の上で入所してもらっている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日常の生活が楽しい日々であるか、不満などは無いのかなど確認しながら、面会時など御家族との信頼関係を深める為に意見や、要望を言いやすい雰囲気づくりに努め、年一回は介護相談員の方の派遣を受け相談にのってもらっている。 | 家族の訪問は多く、適時、面談を行い要望の抽出を行っている。家族が遠距離の場合は電話や郵送物により報告等を行っている。例えば、家族より電動ベッドの購入要望があり対応している。また、運営に関する意見の抽出にも努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 運営者兼管理者は、スタッフと生活を共にしながらスタッフが意見を述べやすい雰囲気づくりに努めながら、ミーティング時も、なるべくスタッフの意見を主とし、場合によってはアドバイスを与えながら解決策を見出している。 | 月1回のミーティングの中で利用者の状態や研修、活動報告等を行っている。おむつのメーカー変更や加湿器の購入等ケアに関する要望等が挙がり、実現している。また、施設長等へ要望を伝えやすい環境作りが出来ており勤務ローテーションや有給休暇取得は希望に沿えるように努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務状況を把握する為、管理者は常勤し経験、年数などに応じた介護が出来ているのかを観察し給料明細書の中に、お礼とアドバイス文章を同封、さらに規定以上の職員を配置、余裕をもって仕事をしてもらっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 長崎市GH連協における研修会など交代で参加また、事業所独自の方法で認知症に対する教育疑問点などは上司が説明し、特に新人に対しては専門用語などの説明に留意している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修会、事例検討会、市GH連協主催のボーリング大会などに参加し交流を深めながら、介護の質の向上に努めている。また、他施設の行事にも参加している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居に先立ち、御家族やソーシャルワーカーさんと共に見学してもらい、場合によっては暫く施設内で過ごしてもらい雰囲気を確認して頂き本人やご家族からの要望を聴きながら十分な情報を頂いている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所前から相談に応じ、介護理念等の説明に合わせ、介護の実際を見て頂き(家族が一番心配されること)皆に迷惑掛けないか?に対しては、数日後面会頂き、入居前後の状態を比較してもらうなど、家族との信頼関係に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 他サービス機関及び病院からの紹介入所多いが殆どの方が3日もすると日常生活が安定されるため、他施設への紹介実績はないが、万が一の時はショートステイ等へ紹介できる旨説明している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 認知症は神が与えた休みの時間であることなどを全スタッフに認識してもらい理念に基づき、お互いに支え合いながら楽しく毎日の生活が出来るよう努力している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 遠方にご家族や面会が少ないご家族には、電話あるいは手紙に於いて現状報告、特に初めての入所初期、入院からの再入所時など写真を添えて報告し、ご家族とともに支援している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 特別の問題が無い限り、面会の制限はしていない。地域老人の方、御家族、親類、友人、知人と面会は様々であるが、教会に行けない方には時々神父様に来所頂いている。 | 家族や友人等の訪問者が多い事が面会簿から確認できる。利用者の要望により教会の神父が訪問したり、理容室や美容院への送迎支援を行ったり、家族の支援を受けながら外泊支援を行っている。また、地域の老人会の方との関係継続にも努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 会話がかみ合わない、利用者さん同士の会話にも耳を傾け、トラブルない様見守りながら、お互いの信頼関係を援助し、楽しく毎日を過ごして頂けるような雰囲気作りに努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 長期入院時にも、スタッフが交代で面会に行き洗濯物の交換したり、契約終了後に死亡などの連絡があれば、葬儀参列し、時には忌明け頃までの関係を保っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | バイタルチェックに合わせ、表情、発語、動きの中から、その人の今の状態を把握し、その時の精神、身体の状態に応じた介護を展開し個々の生活が安全、安楽であるよう努めている。 | 日々の会話や支援の中から本人の希望等をくみ取るように努めている。また、入居時とその後は定期的にあセスメントシート、ケアチェック表を作成し生活歴等を把握し記録している。職員は日々の利用者の状態等は個人介護日誌や施設介護経過に記録し情報を共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 御家族、担当ケアマネさんからの情報提供してもらい、その人の趣味や癖、生活パターンなどを把握し不足情報は面会時等の追加情報してもらい一日も早く施設の雰囲気慣れて頂くよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個々の健康チェックはもちろんのこと、一人ひとりの生活リズムを把握したうえで、その人の、その時の状態に応じた対応を心がけている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | チーム受持ち制でモニタリングし、不明な点は面会時家族と相談また、本人の望み等を確認、作成できたものは家族へ郵送し、ご確認頂き、その上で、その人に相応しい介護計画作成につとめている。 | 介護計画は基本的には6ヶ月に1回見直すと同時にモニタリングを行っており、利用者の状態に変化があれば随時見直しも行っている。利用者の元気になりたいというニーズや家族からのリハビリを取り入れて欲しいといった要望に応えられるように職員皆で検討し計画の作成を行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 健康状態チェック表にもとづき、その日の健康状態や排尿、排便の有無確認し、一日の行動、会話などを時間的に個別カルテに記載し、ミーティングの中で情報を共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご家族の要望があれば、外出、外泊してもらい、歩行可能な人には買い物に同伴してもらったり、不定期にドライブに出かけたり、本人の要望があれば散髪などにも出かけ楽しい日々を楽しく過ごしてもらえよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域住民との交流はもちろんの事、商工会主催の地元子供達の体験学習の施設として、積極的に受け入れ、時には町内、地域の行事にも参加している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人及びご家族に不安を与えない為に、入所前の病院、医院への通院を原則とし、緊急時の対応の為に内科、外科は御家族の了解のもと連携病院である近隣の病院受診を行っている。歯科は定期的に往診頂いている。 | 原則、入居前のかかりつけ医を受診できるよう支援し、緊急時の対応のため連携医療機関にも受診を行ってもらいカルテを作ってもらっている。家族の要望があれば通院送迎支援も行っている。歯科に関しては月に2回歯科医と歯科衛生士の往診がある。歯の磨き方や嚥下指導も受けている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 理事長が看護師で常勤であり入居者に変化については常に報告、相談、指示受けを行い、理事緒不在時には、兄弟施設の訪問看護ステーションの指示を受けるようなシステム。現在は夜勤アルバイトで看護師4名勤務している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中はスタッフが交代で短時間でも面会に行ったりしながら、寂しい思いをさせないように努め、長期入院は認知進行の恐れある為出来るだけ早期の退院ができるよう主治医、担当看護師との話し合いを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご利用契約書の中に看取りの指針、同意書など綴り込説明、重度化の場合には近隣の提携病院より指示書にて訪問看護師による医療行為を受けられる体制を整えているが、最終的には御家族との話し合いにて決定する。 | 事業所では看取りに関する指針を明確にしており、入居時に家族へ説明している。要望が生じた際に改めて説明を行い、同意書に署名をもらっている。開設からの実例は2例ある。事業所内には看護師が常置し、最寄りの連携医院、訪問看護等医療的支援を得やすい環境にある。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアル及び緊急連絡網作成。救急蘇生法の指導、吸引機、在宅酸素設置し、必要に応じ、吸引機の取り扱い。吸入酸素の取り扱いなど指導行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 2-Fからも階段利用しなくても避難出来るようにスロープ設置、消防設備会社の定期点検に合わせ初期消火の実際の指導受けている。緊急時の備蓄に関しては、近隣農家に、新米10俵の保存を依頼している。 | 年2回の訓練が行われており本年12月に夜間想定による訓練を予定している。マニュアルや緊急連絡網が整備されており、避難経路は明確であり、スプリンクラーの設置及び食料備蓄が行われている。しかし、声かけは行っているが地域住民の参加や近隣機関との協働までには至っていない。 | 引き続き積極的に地域住民や近隣機関に働きかけを行い、協力し合いながら、様々な災害に対する対策の立案や訓練が定期的に行われる事が望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 言葉による虐待、拘束が無い様に、お互いが心がけ、機会あるごとに注意を促すと共に、また入居者の方のプライバシーを損ねないような行動に十分な配慮を行っている。 | 職員は日々の支援の中で利用者の人格を尊重して対応する事と身体の安全性を重要視している事がヒアリングにて聞いてとれる。トイレ誘導の際の言葉かけの際にも配慮している。守秘義務に関しては、職員の入社時に個人情報保護に関する教育を行い、誓約書を提出してもらっている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 出来るだけ本人の希望に応じ、ショッピング引率、散髪、身体的健康な方には夕食の買い出しの荷物持ちで同伴してもらっている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な一日の流れはあるが、個々のペースを大切にしたいから、大きなイベント以外は週間月間の予定はないが、誕生会は其の都度行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 日常生活が自立している方は見守り、自己決定の出来ない方に対しては介助し、時期を見ては、福利厚生の一環としている理美容院に引率している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 見守りの方、半介助の方、全介助の方とさまざまであるが、誤嚥を防ぐ為にトロミをつけたりしながら、その人のペースに合わせ、TVを消し音楽を流しながら、ゆっくりと食事が出来るよう心がけている。 | 朝食と夕食は職員が担当し、昼食は利用者の食事支援や見守りに重点を置くため配食サービスを利用している。利用者の状態に応じて刻みやとろみ食などを提供し、また胃ろうの利用者も食事の雰囲気を感じられるように居室から食事の場へ移動する支援を行っている。また、食事の準備等は利用者の力に合わせて手伝ってもらっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 昼食だけは外注食にし、栄養士により栄養計算してもらい、おやつや食事の水分補給には十分注意し脱水などにならないように心がけている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 定期的に歯科Dr、歯科衛生士に往診して頂き口腔内清潔保持の指導を受けながら、毎食後の歯磨き、義歯の洗浄を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 尿取りパット使用する様な方が増えてきたが、排尿チェック表確認しながら時間的にトイレ誘導し、失禁の軽減に努めるとともに、自室ポータブル使用の方はコールにて介助、排泄調整にも心がけ健康管理に努めている。 | バイタルや排泄の記録は健康状態観察表に記録が行われており、利用者の状態把握、排泄の量や回数を把握し、声かけや誘導をし支援を行っている。居室ではポータブルトイレを利用される方もいる。日々の支援により入院時の時から、排泄に関する動作の回復に繋がった例もある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 健康管理表を参考にしながら、時には看護師の指示の下、摘便、浣腸にて処置する場合もある。便秘傾向にある方は主治医と相談し下剤の処方受けたり、おやつや飲み物にも工夫している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 殆どの方が介助を必要とする為、個々の希望に応じた支援は十分とは言えないが入浴順位などには気を配り、失禁など合った場合には、いつでも入浴、シャワー浴など何時でも可能な準備はしてある。 | 入浴は週3回以上を目安に支援を行っているが、利用者の要望や状態に応じて柔軟な対応を行い、清拭は随時行っている。入浴介助の際は利用者の身体の安全を考慮し2人で対応し、必ず側に職員が付いている。入浴剤の代わりに正月には風呂用の牛乳風呂を準備し入浴を楽しめる工夫を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日常生活のリズムを整え、昼間の不安などの除去に努め、夜間十分睡眠が取れるよう支援。眠剤も主治医と相談しながら最小限の服薬にしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方された薬の説明書を、個々のカルテに綴じ込め薬の作用、副作用が分かるようにし、処方変更時にはリーダー簿にも記載しながら、申し送りを行い誤薬のないよう確認、注意しながら与薬。薬は事務所内管理している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 車椅子の方、透析、と体力低下の方が増え、生活歴を活かした役割行動は少ないが、食後の茶碗拭き、ゴミ袋作り等手伝ってもらっている。喫煙者の方とは指定の場所で雑談しながら楽しんでもらっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 決まった職員の中で、運転出来ない人もおり、個々の要望には十分にに応じる事は出来ないが食材買い出しの手伝い、気分転換に透析迎え等に同伴してもらい、できるだけ要望にこたえる事ができるよう努力している。 | 年齢を増すと共に利用者の身体能力が落ちていっているため可能な方が中心になってしまうが、事業所の近辺の散歩や食材の買い物に出かける際に支援している。また、季節を感じ取れるように花見や地域の行事ごとへ同行外出支援を行っており、車椅子の方も一緒に出かけている。床屋への送迎も行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居時ご家族との話し合いで、基本的には自己管理は無いが、嗜好品、日用品購入は事務所一時立て替えといった方法で同伴する時もある。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙は殆どないが、御家族からの電話で本人さんと通話してもらう時もある。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者の方々と信頼関係を築きながら、玄関に花野菜を植えたり、四季折々の果物提供し、五感の刺激による季節感覚に努めながら、室温調整など気を配り、居心地の良い生活を支援している。 | 事業所内はゆったりとした広さがある空間となっており、装飾等から季節感を感じる事ができるようになっている。飼っている犬との触れ合いを好まれる利用者もいる。換気や冷暖房は職員が管理し、適度な温度が保たれるよう心がけている。うがいや手洗いを徹底する事で感染症は今まで1回も起こった事はない。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居室、リビング、屋外と個人個人が好きな場所で過ごして頂けるよう、常に玄関ドアは開放している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時危険物で無い限り荷物持ち込みの制限はしていない。ご家族にも出来るだけ馴染みのものを特参されるよう依頼している。不足の物は、本人希望の物を揃えたり、高価なものは、ご家族の了解の下準備居心地の良い部屋提供している。 | 各居室への持ち込みは自由であり、タンス、テレビ、写真、仏壇等の持ち込みがある。居室入口には利用者が誤って入室する事を防ぐため、花のデザインを飾る工夫を行っている。居室内には加湿器を備え感染症予防を行い、清掃は主に職員が朝出勤した際に行い清潔を保てるよう努めている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 車椅子操作の出来る人、歩行器使用の方など見守りで、歩行に障害物が無い様心がけ、最小限の薬で最大限の介護を目指している。 | | |